東京都葛飾区立南中学校

日本の水道について

三年四組

戸川　清香

私達人間にとって、水は必要不可欠なものである。そのため、水を各地に届ける役割を持つ水道も、必要不可欠なものだと言える。

水道の整備が進んでいない場所では、衛生状態をしなければならなかったり、水質が悪くて病気になってしまったりする。しかし、安全性の高い水を手に入れる為には、お金が必要になる。このように、安全な水をよく入れる

ことが簡単ではない場所は、世界中に少なからずあるのだ。

一方、日本は水道の整備が進んでおり、水道普及率は約九十八パーセントである。さらに、日本の水道水の安全性は世界トップレベルに高く、水道水をそのまま飲むことができる数少ない国の一つだ。そんな国で暮らすことができている私達は、恵まれていると言えるだろう。

しかし日本では、水道から綺麗な水が出る

ことは当たり前のことで、関心を持っている人は少ない。実際に私も、今まで水道について調べたことがなかったし、調べようとも思わなかった。そのため、調べた内容は初めて知るものがほとんどだった。中でも「水道事業の民営化」は初耳だった。

そもそも「水道事業の民営化」とは、水道が抱える問題に対応し、基盤強化を図るために、水道の運営権を民間企業に売却するというものだ。しかし、浄水場や水道管などの施

設の所有権は自治体が持ったままなので、民間企業にとってはリスクが少なく、参入しやすい仕組みとなっている。この「水道事業化」の民営化」を行うかどうかは各自治体に任されている為、大阪市などは検討していないようだ。

では、「水道事業の民営化」が可決された背景にある「水道が抱える問題」とは、一体何なのか。

それは主に、水道管の老朽化である。日本

の水道管の大分部分が耐用年数である四十年を越えてしまっており、水漏などの事故が多発している。そのため、古くなった水道管を交換する必要がある。しかし、水道管を交換するにあたって、莫大な資金と人材が必要になる。それらを各自治体が用意することは難しいため、「水道事業の民営化」が可決された。

「水道が抱える問題」は、一つだけではない。他にも、人口変動による有収水量の減少や、水道職員の削減による水道サービスの低下などがある。

これらの問題を解決するには、私達国民一人一人が、国の水道に向き合う必要があるだろう。そうでなければ、今までの水道に対する「当たり前」が、「当たり前」でなくなってしまう可能性もあるだろう。水道だけでなく、他のものでもそうなってしまう可能性がある。「当たり前」のことにも関心を持ち、調べ、真剣に向き合うこと。それをしていく

ことが、よりよい未来に繋げるために必要だと思った。